

## ～皆伐再造林地における希少種「クマゲラ」の繁殖成功事例から～

根釧西部森林管理署 主任森林整備官（資源活用・森林ふれあい） 高橋 秀明

## 研究の背景・目的

森林生態系の指標としてキーストーン種に位置づけられている希少種クマゲラの新たな営巣・育雛等が、森林の伐採としては環境変化が最も大きい皆伐再造林地で確認されましたので、その繁殖事例を調査・分析し、林業と生物の多様性が両立する多様な森づくりに向けた一助として考察します。



## 研究の内容・成果

## 1. なぜ皆伐再造林地でクマゲラの繁殖が成功したのか

営巣木を、6月に初めて確認して以降、1週間毎に観察を実施した結果、営巣木の置かれた状況が、クマゲラの営巣条件である以下のことに合致し、自然繁殖に成功したと思われます。

- ① 営巣木の条件：直径38cm以上あり、樹皮は平滑で幹が通直でやや傾斜する
- ② 地形等周辺環境：採餌木があり、周囲の地形が平坦で樹冠密度が低い
- ③ 繁殖期が脅かされない作業行程：クマゲラの繁殖期（4月～6月）を阻害しない時期で実行された

年 月	H(α)		H(α+2)		H(α+3)			
	10月	11月	10月		4月	5月	6月	7月
施業時期	伐採・搬出(皆伐)		地拵	検査 ●		植付	検査 ● ※営巣木発見	
クマゲラ 繁殖時期 (推定)					造巣期 → 産卵 → 抱卵期 → 育雛期 → 巣立・家族期			

営巣木  
確認育雛  
確認巣立後  
確認

## 2. 空間の創出と保残木の有効性

「やまを伐ったあと、のこりにヤマガラス（クマゲラ）がやってくる」というような伝承を国有林の現場各地で耳にしてきました。今般、管轄内において確認されている他の4箇所の営巣木の環境条件を比較したところ、いずれも周囲、特に巣穴前方に広い空間があったことから、クマゲラの営巣・繁殖において伐採により林地に空間を創り出すことは有意であるとともに、たとえ単木的にでも林地に樹木を保残することは有効であると考えます。

## 3. 営巣木周辺の状況調査から

営巣木は皆伐区域に保残された枯立木ですが、周囲50mの状況を見ると、森林が隣接しており、採餌や移動、隠れ場所に使用していることから、単木的な保残状態であっても隣接する森林があればクマゲラの営巣木になり得ることがわかりました。

## 今後の展開

成熟した人工林を誘導伐等による更新を図っていく上で、母樹となる樹木等を少しでも残すことが、天然力を活用した施業上のメリットを生み出しつつ、クマゲラが生息・生育する環境の創出となり、クマゲラが棲む森へと誘導され、ひいては林業と生物多様性の両立・共生につながると考えます。